

2025

地域社会研究

第18号

弘前大学大学院地域社会研究科

弘前大学地域社会研究会

はじめに

『地域社会研究』第18号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

国立社会保障・人口問題研究所の昨年度の発表によると、2050年の青森県の将来推計人口は75万人になるといわれています。高齢化率も約50%と推計され、人口減少だけでなく、少子化が進むことにより、地域社会の維持が困難な状態が到来することが予想されます。2050年とは先のようには思われますが、約25年後のことです。あっという間にやってくる近未来の出来事に対して、私たちは今何をすべきでしょうか。それは、私たちが過去に学び、現在の新しい知見を活かし、地域の未来を一緒に創っていくことだと考えます。

さて、この『地域社会研究』は、弘前大学大学院地域社会研究科に所属している教員と在学生、そしてOBで構成される弘前大学地域社会研究会によって編集、発行されているものです。今回の第18号では8つの研究報告とその他が1つ掲載されています。テーマをみるとさまざまなものがありますが、どれもが地域が抱える課題をテーマとし、それらの解決に向けて果敢に研究に挑んでいる様子が読み取れます。内訳をみていきますと本研究科の教員や客員研究員による研究報告だけでなく、現役の大学院生による研究報告が2つも掲載され、大学院生も活発に研究を行っていることが分かります。総じて、本誌に掲載されている研究報告は、上述した「地域の未来を一緒に創っていく」研究であり、今後の地域社会の発展に貢献できるものと考えています。

ところで、弘前大学地域社会研究会は2024年12月19日に研究会を開催しました。研究会では2つの研究報告がなされましたが、いずれも博士論文執筆を見据えた研究の中間発表ではあり、非常に興味深い報告がなされました。そのうち1名の報告者は本誌に研究報告を寄せており、その内容を確認することができます。このように地域社会研究会では、この『地域社会研究』発行のほか、研究会を開催しています。いずれも自らの研究に対して貴重な意見を得ることができるよい機会となっています。とくに大学院生の皆さんにとっては、幅広く意見を得ることができる機会となっていますので、このような機会を活用し、自らの研究のレベルアップに取り組んでほしいと思います。

最後になりますが、本誌は完成論文ではなく、研究途中の論旨や資料をまとめたものを公表する目的で発行されております。つまり、本誌に掲載されている研究報告等は研究経過を報告したものであり、今後さらに研究内容をブラッシュアップしていくものとなっています。そのためには皆さんからのご意見やコメントが必要となります。本誌に掲載された研究報告等をお読みいただき、皆さんからのご意見、コメントなどを是非お寄せくださいますようお願いいたします。

令和7年3月

弘前大学大学院地域社会研究科

研究科長・教授 森 樹 男

『地域社会研究』 第18号

目 次

はじめに……………	弘前大学大学院地域社会研究科 研究科長・教授 森 樹 男
《研究報告》	
整備新幹線・2024年の俯瞰 —北陸・敦賀延伸を中心に 櫛引 素夫（青森大学社会学部、弘前大学大学院地域社会研究科 客員研究員、 地域ジャーナリスト）……………	1
誘致企業の規模縮小と地域主体の観光地域づくり： 蔵の街喜多方（株）と北方藤樹学を中心に 佐々木 純一郎（弘前大学大学院地域社会研究科 地域産業研究講座 教授）……………	19
持続可能な町村議会改革検討の方向性 橋田 誠（弘前大学大学院地域社会研究科 客員研究員）……………	29
防災計画作成時の参照資料から見た防災計画改善の試み 高千穂 安長（弘前大学大学院地域社会研究科 客員研究員）……………	39
農村RMOにおける持続性の確保に関する考察 —土地持ち非農家参加の地域保全隊と農家レストラン『食堂一本松』を事例として— 竹ヶ原 公（弘前大学大学院地域社会研究科 客員研究員）……………	45
中学校における二酸化炭素及び放射性廃棄物の地底・海底処理に関する授業実践 杉江 瞬（弘前大学地域社会研究科 客員研究員）……………	55
弘前市インバウンド観光に関する現状分析と今後の研究計画 孫 暁儀（弘前大学大学院地域社会研究科在学中 地域産業講座（第22期生））……………	63
歴史や風土に根ざした景観づくりの課題と展望 ——Y区の事例分析を通して 胡 偉静（弘前大学大学院地域社会研究科在学中 地域文化講座（第23期生））……………	73
《そ の 他》	
特別活動と公民的分野を関連付けたESDの授業開発 —青森県上北地方の地域素材を教材化して— 野澤 敬之（弘前大学大学院地域社会研究科 客員研究員）……………	83
『地域社会研究』の標準形式……………	91

『地域社会研究』の標準形式；4th

弘前大学大学院地域社会研究科『地域社会研究』第18号編集委員会

1. はじめに

本紀要を「地域社会研究」とする。年1回の刊行を目指し、査読論文・博士論文以前のアイデアや、未定稿段階のものを発表・報告するものとし、レスポンスやオピニオンを学内に限らず広く求めるものである。発行者は「弘前大学地域社会研究会」である。

2012年、同研究会は大学院教育のFD（faculty development）の一環として再スタートを切った。特集記事では大学院地域社会研究科の調査方法論で行われた調査の内容や、研究科の活動について報告する。そのほか、研究発表会で博士論文構想や学会発表などの立場を明確にして発表を行い、その内容を研究報告として掲載することができる。

2. 体裁

原稿はA4サイズとし、Microsoft word等のソフトで作成する。左右の余白は30mm、上部の余白は35mm、下部の余白は30mm程度とする。題名はページの冒頭に配置し、文字サイズは16ポイント太字程度とする。以下の様式を参考に、脚注に所属を明記する。本文は基本的に横書きで、文字数の設定は1ページあたり40字×40行、標準的な文字サイズは10.5から11ポイントである。

- 在学院生
弘前大学大学院地域社会研究科在学中 地域〇〇講座（第X期生）
- 修了者、単位取得満期退学者など
現在勤務中の職場、研究機関、学会など
（弘前大学大学院地域社会研究科 地域〇〇講座・第X期生）
- 教員
弘前大学大学院地域社会研究科 地域〇〇講座
〇〇学部 職名

図版は、本文中に組み込んでも最後にまとめても良い。ただし、図版がカラー印刷となる場合は、印刷費用軽減のため、図版の配置を見直し、最後にまとめたりすることがある。

なお、この体裁は推奨のものであり、執筆者の希望によりある程度の変更は可能である。例えば、縦書き様式での執筆原稿は、裏表紙側のページからはじまるものとする。

全体を通して和文は明朝体、英文はTimes、句読点は「」（ピリオド）、「（コンマ）」及び「。（句点）、「（読点）」のいずれかに統一する。基本的に数字は横書きの場合、算用数字を用い、縦書きの場合は漢数字を用いる。

文末には注と引用文献・参考文献などをまとめる。様式は統一してあれば特に問わない。

英題及び英文アブストラクトは特に希望のある場合のみ掲載する。

3. 内容

(1) 研究報告

地域社会研究会報告発表会において、報告・発表した内容とする。図版を含め、目安は10ページ前後とするが、アイデア段階のものや、研究の追録・中間報告などについては、多少ページが少なくなってもかまわない。在学院生の場合は、調査方法論にかかるものはその担当教員、それ以外の場合は指導教員に投稿前の段階で目を通してもらうこととする。

(2) 書評・新刊紹介など

地域社会研究会の会員が携わった書籍などについて、内容の紹介などを行うことができる。自薦・他薦を問わず、会員に紹介したい書籍などについて執筆することとする。目安は1～2ページ程度。

題名は「〔書評・新刊紹介など〕『紹介する書籍の題名』」とする。章立てなどで内容を紹介し、文末には刊行情報として、以下を参考に、発行所、発行年月、ページ、価格について明記する。表紙の写真などを図版として掲載することも可能である。その場合、発行所などへの図版掲載の確認・許可申請は執筆者が行う。

〈書籍情報サンプル〉

櫛引素夫著『地域振興と整備新幹線－「はやて」の軌跡と課題－』

(弘前大学出版会・2007年5月・B5判136頁・定価1,050円)

(3) 研究展望

地域社会研究科・地域社会研究会に関わる自身の研究について、今後の展望などについて述べることができる。1～5ページ程度。「(1) 研究報告」に準じるもので、執筆要件は規定しないが報告発表会での報告・発表を行っていることが望ましい。

(4) コラム

地域社会研究科・地域社会研究会に関わることで、例えばOB・OGから現況や修了後の研究進展についてや、修了後、外の視点から地域社会研究科を見てどのように感じたかなど執筆することができる。在学生在が、研究科についてのことを執筆したり、現在の研究について分かりやすくコラムを書くことも可能である。

コラム執筆の要件は、地域社会研究会報告発表会への1回以上の参加である。

(5) その他、地域社会研究科・地域社会研究会に関わることで、コラムやテーマ原稿など執筆希望がある場合は、編集委員会と協議の上、執筆することができる。

4. 投稿規程

地域社会研究会の会員（現行では、弘前大学地域社会研究科の院生及び、単位取得退学者・修了生、及び同研究科教員）であれば、誰でも執筆することが可能である。

ただし、「3. 内容」に記載の通り、研究報告については基本的に発表者しか投稿できない。

なお、合同大会などで発表した者については、地域社会研究科の院生に準じて投稿の資格を有することとする。

全ての場合において、図版・史資料などの掲載確認・許可申請は執筆者が行うこととする。また、調査報告の場合の調査先への許可についても同様である。

なお、地域社会研究科専任教員及び編集委員会などにおいて、特別な事情などが考慮された場合においてはこの限りでない。

5. 抜き刷り

抜き刷りは希望者のみ、研究科予算にて50部を上限として購入することができる。それ以上の部数は追加購入となり、費用は希望者の負担とする。

6. web上の公開に関する手続き

本年度に掲載される論文等はPDFファイルの形で、地域社会研究科のweb上に公開する。筆者の承諾が得られなかった場合、該当箇所を除いて公開する。web上に公開された論文等の著作権は、地域社会研究科に帰属する。

7. おわりに

「地域社会研究」では、レフェリーによる査読修正は行わない。ただし、教育的配慮から主指導教員もしくは副指導教員に目を通してもらうことを、お願いしたい。

完成原稿は図版などを含めたデータをCD-Rなどに入れるか、メールなどで編集委員会まで提出する。郵送の場合は、締切日必着のこと。印刷したもの（ハードコピーなど可）を1部添付することが望ましい。

※本原稿は2024年3月18日現段階での標準形式及び執筆・投稿規程について示したもので、今後変更される可能性がある。

監 修

弘前大学大学院地域社会研究科

地域社会研究 第18号

2025年 3 月24日印刷

2025年 3 月31日発行

編集兼発行者

弘前大学地域社会研究会

弘前市文京町1番地

☎0172-36-2111(代)

印刷所 やまと印刷株式会社

弘前市神田4丁目4-5

☎0172-34-4111(代)

地域社会研究

第18号

弘前大学地域社会研究会

2025